

【理念】

主に難治・慢性疾患の子どもを対象とした医療・保健・療育・福祉サービスの県の中核機関として、安心・信頼・満足の得られる医療・ケアの包括的なサービス提供を行います。

【基本方針】

- 高度な専門知識と技術の向上に努め、良質で安全な科学的根拠に基づいた医療を、十分な説明と納得の上で提供します。
- 地域の医療、保健、療育、福祉、教育機関との機能分担・連携を図ります。
- 小児の医療、保健、療育、福祉にたずさわる専門家の育成、学生教育への協力および臨床研究を通じて、県下の小児保健医療の発展と向上に貢献します。
- 県立病院の使命としての政策医療を推進します。

診療科等のご案内

- ◆ 診療科目
小児科（総合内科・神経内科・アレルギー科）
こころの診療科（精神科）、整形外科、小児外科、眼科
耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科
- ◆ 外来
予防接種、肥満、発達障害、ダウン症
臨床遺伝カウンセリング
 - 内科系：頭痛、心臓内科、腎臓内科、内分泌・代謝科、血液・リウマチ科
 - 外科系：泌尿器科、脳神経外科、形成外科
- ◆ 病床数 100床

ご利用案内

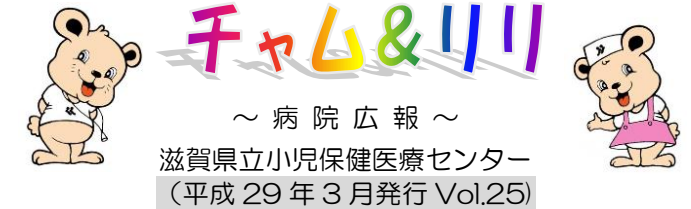
- ◆ 外来診療
 - 小児科（総合内科）を除き、原則として予約制です。
 - 診療時間 午前 9時00分～午後 5時00分
 - 予約受付時間 午前 8時30分～午後 5時00分
 - 休診日 土・日・祝日・年末年始
- ◆ 初診時の注意点
 - 0～18才未満の方を対象としています。
- ◆ 初診時に持参いただくもの
 - 保険証（国保・協会健保・共済等）：受診時毎月提示してください。
 - 母子健康手帳（乳幼児の場合・こころの診療科受診の場合）
 - 医療券（公費負担をご利用の場合）

★予約直通電話：077-582-8425★

小児科（総合内科）は予約なしで受診していただけます。
診療受付は午前11時30分（月～金）までです。

地域医療連携室ご利用案内

- 受付時間 月曜日～金曜日
午前9時00分～午後4時30分
（土、日、祝日、年末年始は除く）
- 直通電話 077-582-6222
- FAX番号 077-582-6276



特集「当院の小児アレルギー診療」

いきなりですが問題です。以下の文章のうち間違いはどれでしょうか？

- ① 食物アレルギーを予防するためには、離乳開始を遅らせたほうがよい。
- ② 乳児期の湿疹の多くは食物アレルギーが原因である。
- ③ ステロイド軟膏は少量を薄く伸ばすように塗る。
（正解は本頁の一番下を参照）

アレルギー疾患は子どもの代表的な慢性疾患であり、難治化することも多いですが、治療は日進月歩の進歩を遂げています。一昔前なら「正しい」と思われていた上記の問いのような古い常識が今では間違いとされることも多いのです。当院アレルギー外来では、常に最新の知識を取り入れ、もっとも有効で安全な治療方針を提供しています。なかでも食物アレルギーに関しては、安全な解除を目指す独自の方法を実践して良好な成績をあげています。アレルギーの治療は長期に渡るため、丁寧な患者指導が必要です。当院ではアレルギーの専門資格をもつ看護師（小児アレルギーエドゥケーター）を中心に、きめ細かい患者指導を行なっています。また管理栄養士による栄養相談も充実しています。この特集では、これらチームでアレルギー診療に取り組むスタッフが、それぞれの取り組みについて解説しています。お悩みの方はぜひご一読いただき、一度アレルギー外来でご相談下さい。



人形を使ったアドレナリン自己注射薬（エピペン®）指導

★問題の正解：いずれも間違い

【小児科主任部長（アレルギー外来担当） 楠 隆】

小児アレルギーエドクターを御存知ですか？

小児アレルギー疾患は慢性疾患なので、症状と長くお付き合いしながら治療していく必要があります。症状を良くするためには、アレルギー疾患のことをよく知り、正しい治療方法が続けることが大切です。けれど、治療を毎日続けるのは大変ですよね。小児アレルギーエドクターとは、各疾患のガイドラインに基づいて、小児アレルギー疾患とうまく付き合っていくための方法をお子様やご家族と一緒に考え、提供していくための専門資格です。



小児アレルギーエドクターはどんな人？

高度なアレルギーの専門知識と指導技術を習得し、臨床現場で小児アレルギー疾患（気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなど）の診療に小児科医とともに関わっている看護師（准看護師を含む）、薬剤師、管理栄養士です。

小児アレルギーエドクターは何をするの？

それぞれのお子様の日常生活に合わせて、アドバイスをを行います。例えば、気管支喘息なら吸入の仕方や発作の時の対応など、アトピー性皮膚炎なら軟膏の塗り方やお風呂の入り方など、食物アレルギーならアドレナリン自己注射薬の使い方や緊急時の対応、除去食の栄養相談など。当院では外来と病棟に2名の看護師のエドクターがいます。アレルギーでお悩みの時、まずはお気軽にお声かけください。

【病棟看護師（小児アレルギーエドクター） 吉弘径示】

アレルギー外来における患者指導

子どものアレルギーは成長するにつれていろいろなアレルギー症状が出たり消えたりします。例えば、赤ちゃんの時に食物アレルギーやアトピー性皮膚炎になると、5歳頃までに気管支喘息になり、さらに大きくなるとアレルギー性鼻炎やアレルギー性結膜炎になるというケースはよく見られます。もちろん個人差はあり、みんなが同じルートをたどるわけではありません。アレルギーは体質だけでなく環境も複雑に関わっているからです。ですから、初診時はいつからどのような症状で何に困っているのかなど、じっくりお話を伺います。そしてご家庭で出来る事を一緒に考えていきます。

外来では食物経口負荷試験（食物アレルギーの子どもに原因食物を食べてもらって解除していけるかどうか確認する試験）もよく行ないます。不安を抱えている子どもや果敢に挑戦する子どもなど様々ですが、それぞれの思いを聞いて励まし、環境を整えています。また、試験中はお子さんの状態を慎重に観察し、誘発症状が出た時は医師と共に速やかに対応して症状改善に努めています。

お子さんが機嫌よく遊び、おいしく食べ、たっぷり寝る生活はご家族を元気にハッピーにしてくれることでしょう。アレルギー外来はお子さんをご家族に寄り添い、お子さんが健やかに成長をしていくためのサポートをさせていただきます。



【アレルギー外来の患者指導に用いられる様々なグッズ】

【外来看護師（小児アレルギーエドクター） 笹畑美佐子】

栄養士によるアレルギー管理

アレルギー除去食指導において、「食物除去によって特定の栄養が不足するのでは？」と不安に思われる方も多くおられますが、米などの主食、肉・魚・大豆などのタンパク質を含む主菜、野菜・芋などの副菜を揃えれば、栄養上問題が起こらないことを伝えていきます。乳製品除去に関してはカルシウム補充を加えて話を進めます。

最近の食情勢として料理は作らなくても購入できるものが増えていますので、上手に利用するとよいでしょう。食物アレルギーの有無に関わらず、離乳期から幼児期の食事は子どもの生涯にとって重要な意味を持つので、大人の食事も含めて見直して頂ける機会とし、簡単に手軽にできる食事の情報提供に努めています。

【管理栄養士 小野多枝子】

わがセンターのボランティアさん

皆様こんにちは。2か月に1回木曜日にロビーコンサートをさせて頂いております。ピアノ深尾彰子、高木響太、アルトサックス山崎綾乃、フルート林真理です。メンバーの家族がこちらでお世話になり、それが縁で演奏させて頂いております。ピアノはショパン、リスト、シューベルト、ドビュッシーなどロマン派以降のレパートリーが多いです。アルトサックス、フルートはクラシック、J-POP、ジャズ、映画音楽、童謡など季節に応じた皆様になじみのある曲をセレクトしております。「やっぱり生演奏はいいね」「ほっこりした」「いやされた」との感想をいただきますととても嬉しく、毎日の練習の励みになります。自分たちができる小さな事で患者様やご家族、利用されている皆様が喜んで下さって、音楽の素晴らしさやパワーを共有できて本当に幸せです。これからも続けていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

